

建設国保の予算確保に向けて、6月から厚労省宛てにハガキ要請行動を取り組んでいます。1人1シート(4枚)の記入が目標です。7月まで取り組みます。家族ぐるみで協力ください。

厚労省へ要請
ハガキ書こう



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

印刷部数11万1900部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人 三木 勉

2020年春の拡大月間到達 (6月1日現在)

支部名	目標	累計	年間拡大率	支部名	目標	累計	年間拡大率
足立	347	171	4.14	中野	190	142	4.66
荒川	81	42	3.22	杉並	137	★139	5.49
葛飾	180	95	3.35	三鷹武蔵野	89	69	4.16
文京	45	29	4.04	狛江	59	★65	5.50
台東	62	42	3.93	調布	107	84	6.06
墨田	113	52	3.48	多摩西部	154	★154	5.87
江東	135	51	3.17	西多摩	153	★211	★7.79
江戸川	363	224	4.59	小金井国分寺	51	19	2.45
板橋	200	★240	★7.95	府中国立	114	★120	6.09
豊島	86	★88	★6.65	八王子	89	58	4.65
北	114	66	4.83	日野	96	64	4.86
練馬	279	★282	5.30	多摩・稲城	88	★88	5.48
港	50	★50	6.13	町田	111	50	4.04
品川	84	38	3.91	小平東村山	109	62	4.02
大田	186	75	3.43	清瀬久留米	69	27	3.40
目黒	85	★91	4.98	西東京	71	49	4.35
渋谷	122	★123	5.57	村山大和	79	32	4.19
世田谷	194	115	3.54	全支部合計	4,564	3,384	4.82
新宿	72	★77	★7.15				

★は目標達成



多摩・稲城支部最終盤決起集会 (5月29日)

【多摩・稲城支部書記・鈴木寛次通信員】多摩・稲城支部でも春の拡大月間はこれまでにない困難な状況のなかでの運動を強いられ、東京土建の組織力を活かして支部から分会、分会から群、群から仲間へと電話かけで連絡を広げ、困窮している仲間へは支部に相談を持ちかけること、組合未加入でも相談できることを伝え、対象者の集約を行ないま

2020年春の組織拡大
相談から寄り添い加入へ
組織部長 檜山 剛志



檜山組織部長

仲間と信頼深めた月間
不安や悩みを運動の源泉に

パンデミックとなった新型コロナウイルス感染症拡大が仲間の仕事と暮らし、組合活動にも大きく影響し、かつて経験をしたことのないなかでの拡大月間に対して、ご奮闘いただき、感謝を申し上げます。3密を避け、非接触の電話連絡等の取り組みを中心に、仲間の実情を聞き取り、窮状解決に向けた相談対応から信頼関係を深め、仲間の悩みに寄り添いました。そのなかで未加入従事者にも接近し、問題解決から加入に至った経験や、仲間の不安や悩みの声

要求運動の源泉に自治体要請を取り組み、給付金等の制度が創設されるなどの経験も生まれました。春の加入累計は3384人、月間拡大率2・97%、年間拡大率5484人、年間拡大率4・82%になり、6月当初人員は11万2952人です。月間4%目標達成13支部、1月比増勢12支部、うち3支部が1%以上増勢しました。仲間の信頼関係強化と数値到達を築くため、「課題克服に向けた議論」決定した運動方針の実践と徹底した準備、さらに「分会活動の経験を共有し目的一致させる意思統一」の重要性、運動の先頭に立つ「役員力」こそが、組織発展に欠かせないことも明確となった月間でもありました。



目標達成した練馬支部土支田分会の仲間

この春の月間は、十分に動ききれない状況のなかで、数値的到達に課題を残しました。組織を強く大きくするために、6月以降も引き続き窮

状態に向け、絶対話を基本に、ソーシャルディスタンスを保つことも運動が出来るよう、仲間の知恵を集め、工夫して取り組んでいきましょう。

【多摩・稲城支部書記・鈴木寛次通信員】多摩・稲城支部でも春の拡大月間はこれまでにない困難な状況のなかでの運動を強いられ、東京土建の組織力を活かして支部から分会、分会から群、群から仲間へと電話かけで連絡を広げ、困窮している仲間へは支部に相談を持ちかけること、組合未加入でも相談できることを伝え、対象者の集約を行ないま

多摩・稲城
組織力活かして行動
4%目標に到達

【多摩・稲城支部書記・鈴木寛次通信員】多摩・稲城支部でも春の拡大月間はこれまでにない困難な状況のなかでの運動を強いられ、東京土建の組織力を活かして支部から分会、分会から群、群から仲間へと電話かけで連絡を広げ、困窮している仲間へは支部に相談を持ちかけること、組合未加入でも相談できることを伝え、対象者の集約を行ないま

20分会が目標達成
現勢回復し35人実増

練馬

【練馬支部書記・渡辺直樹通信員】練馬支部の春の拡大月間は訪問対話活動が制限されるなか、個人や分会内事業所への電話を中心とした声かけや個人的な繋がりを活かした「集まらなくてもできる拡大運動」で仲間への声かけを行ないました。コロナ禍で困っている仲間へ「組合への相談を」呼びかけるところ、支部事務所へ「持統化給付金」や「雇用調整助成金」等の申請・相談が増え、仲間のくらしを守る組合の組織力もみられました。事業所の新年度入社による

加入が中心となるなか、「できる拡大運動」であきらめず仲間へ声かけし、聴き取り・対話を進めていくことで、仲間への寄り添いと信頼の獲得、対象者発掘がすすみ、282人の成果で本部目標を達成・超過することができました。また、目標達成分会は春一番拡大では9分会でしたが、厳しいなかにもかかわらず、春の拡大月間では20分会と大きく躍進。6月1日現勢は6991人となり、今年1月1日現勢を回復し、35人実増の到達を築きました。

朝やけ

【スナックでは「一緒にカラオケやダンスを行なう接客は自粛」。ライブハウスでは「客には会話、大声での発声を控えるよう促す」。ナイトクラブでは「感染追跡アプリ運用が始められ、導入を入场条件に」。

【かなり窮屈だと感じる。3密や感染拡大を避けて営業するためには必要な措置なのだろうが、本来、夜の街は客同士や店と客が出会って親しくなる場であつたはず。3密であるからこそ魅力的な場だった。それを避けるというなかで途絶えた客足を戻すためには、新たな工夫や魅力の発信が必要になるだろう。

【コロナ関連の倒産は宿泊業や飲食業で多く発生している」と報告されているが、中小零細の店では休業業が心配される。コロナの第2波・第3波の流行が懸念されるなか、収束まで営業して行けるのか不安な事業主もいるだろう。「新しい生活様式」に則ったガイドラインで営業させるならば、政府は中小零細の事業者を守る継続的な支援をしていく必要がある。コロナが収束して夜の街に活気が戻るまで支援制度を活用して営業を続けてほしい。夜の街を愛する建設労働者のためにもお願いしたい。